

(様式第4号)

第4回 武石地域協議会 会議概要

1 審議会名	武石地域協議会
2 日時	平成30年7月18日 午後7時00分から午後8時40分まで
3 会場	武石地域自治センター2階 第1会議室
4 出席者	池内俊郎会長、大草ひろみ副会長、浦部秀幸委員、木下嘉章委員、小山ひとみ委員、櫻井照子委員、桜井保子委員、高橋みち子委員、滝沢美穂委員、馬場美穂子委員、廣田百合子委員、山岸誠委員、山口英宏委員 【欠席委員7名】 住みよい武石をつくる会自然・生活環境部会 宮下辰男部会長
5 市側出席者	石井地域自治センター長、金子地域振興課長、佐藤市民サービス課長、滝沢産業建設課長、宮越教育事務所長、鈴木森林整備課森林整備担当主査 坂部地域政策担当係長、依田地域担当、掛川主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成30年7月 日

協議事項等

1 開会(大草副会長)

2 あいさつ(池内会長)

3 協議・報告事項

(1) 第7期の全体協議について

(会長)松くい虫対策と雲溪荘の関係について、優先して協議を進めたいと考えている。公共交通と公園化構想については、随時協議していきたい。

(2) 上田市の森林整備について(松くい虫対策)(森林整備課説明)

・森林整備課から、武石地域の松くい虫対策(樹種転換事業)の事業内容や現状、課題等について説明【質疑・意見等】

(会長)昨年、樹幹注入作業に参加していただいた住みよい武石をつくる会自然・生活環境部会とも情報を共有するため、本日、部会長に参加していただいている。何かご意見等あれば、お願いしたい。

(つくる会)樹種転換事業について説明があったが、薬剤の空中散布について、武石地域で反対者はいるのか。

(森林整備課)健康被害との因果関係が認められたとのことで、平成21年度以降、市では実施していない。林道からの地上散布は現在も実施しているが、効果が薄いため、地元と協議し今年度から中止した。保存樹木については、希望があれば実施している。

(つくる会)少数の反対意見で空中散布ができないのはおかしいのではないかと。松本市では実施したようだが、市によって対応が異なってよいのか。

(森林整備課)現在お答えできるのは、平成21年度以降、市では実施しないと決定しているということ。

(つくる会)冬に樹幹注入をしたが、武石の山は急なため作業が大変だった。また、松くい虫に強い苗は、松茸が出ないと聞いたが。

(森林整備課)松くい虫にかかりにくいというものであり、松茸についてはっきりしたことはわからない。

樹種転換事業では、切った松の代わりに抵抗性松は植えられない。

(委員) 樹種転換事業の計画を考えていた自治会では、災害等への強い不安から休止状態のようだが、別の地域でこれから進めていくのか。

(森林整備課) 昨年とは別の自治会へ行政側でエリアをしばらく白紙の状態、樹種転換事業の提案をしていきたいと考えている。事業主体は、あくまで土地所有者であり、自治会の皆さんの話をお聞きしながら進めていきたい。

(委員) 松くい虫の被害地域に対して、年内に地元説明会を実施したらどうか。

(森林整備課) 昨年の地元説明会の結果を受け、やみくもに説明会をすることには疑問を感じている。山の所有者とそこに住んでいる方では意見が異なる。住んでいる方は、やはり水害の心配がある。広く集めて説明をする前に、まずは自治会の役員に相談していきたいと考えている。

(委員) 一般の住民まで含めた地元説明会ではなく、自治会の役員とまず話をし、感触をつかんだ方がよいと思う。樹種転換事業の実施が難しいのであれば、別の方法を検討していく必要があると思う。

(委員) 樹種転換をすることになると、山の木がすべてなくなってしまうわけではなく、ある程度保持しながらやっていくのか。

(森林整備課) 面積にもよるが、松林は切り始めれば早い。同じ年度に植えるのか、次年度に植えるのかもある。

(委員) 枯れた松はチップ化できるとのことだが。

(森林整備課) チップ化するには、枯れて1年以内の木がよい。枯れが進んでいる木は崩れてしまい、持ち出しができない。

(委員) 空中散布による健康被害とは、具体的にどのような害があるのか。

(森林整備課) 具体的な内容は不明だが、病院から「健康被害との因果関係が認められた」との報告が出されている。

(つくる会) 鳥羽山は木を伐採したままになっているが、木は植えないのか。

(森林整備課) 木を植えていないのであれば、天然更新ということで自然に生えるのを待っているのではないかと思う。

(つくる会) 武石の山は天然更新でもよいのか。

(森林整備課) 樹種転換事業は、切って違う樹種を植えるまでの事業であり、ただ木を切るだけでは切り捨て間伐になる。

(会長) 小屋坂の山は、10年か20年に一度伐採し、自然に生えてくるのを待っている。

(つくる会) 樹種転換施業地(案)が急傾斜地で災害危険箇所あれば、市で買い上げたらどうか。

(森林整備課) 現実的には難しい。

(委員) 平成28年度の伐倒くん蒸処理における武石地域への予算投入状況は、支出(1億円)の35%程度とのことだが、平成29、30年度の状況を教えていただきたい。

(森林整備課) 詳細は計算していないが、予算の30%程度は武石地域に投入されていると思う。

(委員) 樹種転換事業は全体で1億6千万円程度だったと思うが。

(森林整備課) 組合が試算したのは、そのくらいだったと思うが、補助金について国県の予算もあるので一気に実施するのは難しい。

(会長) 対象自治会への樹種転換事業の説明会は、早めに実施した方がよいと思う。松くい虫対策協議会の次の日程は決まっているのか。

(森林整備課) 早急に開催しなければいけないと思っているが、未定。雨による災害の心配もある中で、

先日の西日本での豪雨災害があったばかりで、今説明会を開催するのはタイミングが悪いと感じている。地元へ提案して意見を聞いてみないとわからないので、まずは自治会長と相談しながら進めていきたいと考えている。

(委員) 2 kmも飛ぶというが、どのような虫なのか。ときどき見たことのない虫がいる。

(森林整備課) 松くい虫という虫はおらず、マツノザイセンチュウという体長1ミリメートルにも満たない線虫が松を枯らす原因で、その線虫を健康な松に運んでいるのがマツノマダラカミキリというカミキリムシでそれほど大きくはない。

(事務局) 武石財産区では、平成28年度から樹幹注入作業を実施しており、本年度で3年目。昨年度は、薬剤1,000本を200本の松に注入した。樹幹注入は1回実施で7年間もつ。市では、自治会に対して樹幹注入の薬剤の支給をしているため、自治会でも実施していけばスピード感をもって防除していけるのではないかと考えている。

(委員) 薬剤は1本どのくらいするのか。

(森林整備課) 薬剤1本2,000円ほどなので、一本の木に10,000円程度かかる。幹の太さで注入する薬剤の量が変わる。

(委員) 武石公園に薬剤の容器が散乱しているが、害はないのか。

(森林整備課) 樹幹注入の薬剤容器は、注入した翌日に回収しているので、おそらく伐倒くん蒸の薬剤容器だと思われる。平成23年度まではくん蒸実施の証拠として容器を山に置いてくることになっていた。平成24年度以降は容器を回収している。生分解する容器とのことだが、していないのが現状。そのような容器を回収した場合は、お手数だが自治センターまで届けていただければ、森林整備課で処分する。

(3) 武石地域教育事務所からの報告(教育事務所説明)

ア 上田市文化財指定の解除について

下小寺尾のカツラの木文化財の指定解除について説明

イ 武石ともしび博物館企画展について

開館30周年記念事業「鬼平犯科帳にみる江戸の灯火器展」について説明

【質疑】

(委員) 文化財の指定解除された場合の伐採費用は、誰が負担するのか。大布施にもひがん桜がある。

(教育事務所) 文化財指定中は補助等があるが、解除されると所有者の負担になる。

(4) その他

4 次回会議の開催について

日時：8月22日(水)午後7時～

場所：武石地域自治センター2階第1会議室

5 閉会(大草副会長)